

## 當作(とうさく)靖彦・米国大学教授のグローバル講演会(6月29日)



6月29日(木)の5限~6限にかけて、本校中高生・教員・保護者を対象に、「グローバル講演会」が開催されました。

講師は、當作(とうさく)靖彦先生。アメリカ・カリフォルニア大学サンディエゴ校で現役教授を務めていらっしゃいます。

當作先生の講演の一番のメッセージは、「今後は、AIにはできなくて、人間が持つ力を伸ばしていこう。そして、地域や社会、世界の課題を解決し、自他を幸福にする地球市民になろう」でした。その実現のために身に付けていくべき力や考え方について、多くの事例を交えて紹介してくださいました。

當作先生は、日本や世界の教育や社会の改善を目指して、アメリカの大学院でご指導されつつ、世界中からの要請に応じて講演活動をされています。実際、福山高校の講演の前には、マレーシア・マニラで、現地教員を対象とした日本語教育の研修を実施されていたとお聞きしています。當作先生の魅力あふれる講演に感謝いたします。

参加した生徒と教員から寄せられた感想の一部を以下にご紹介します。まずは、中高生の生徒の感想からご覧ください。

- 「中高生のうちに様々な人とコミュニケーションをとり、思考力や、創造力、協働力を高めて、海外で仕事をしたいです」
- 「これからの先 AIに負けないように社会で活動できる人間として人間しかできない創造力や共感力を磨いていこうと思いました」
- 「私の夢は公務員なのですが、今回の話を聞いてこのままでは AI に仕事を取られしまいそうなので、公務員の中でも AI に取られることがなく、人に寄り添えるような仕事に就きたいです。そのために人間にしかない共感力、適応性、協働性などを学校生活の人と関わっていく中で高めていきたいと思いました」
- 「今私達は世界の分岐点となるこの時代を生き抜いていかなければならない、危機感を感じる事ができました。AI にすべて左右されず創造力、想像力、思考力を養っていきたいです」
- 「「こんなものが欲しい」「こんなものを作りたい」という需要を作り出すことは AI にはできないので、生活の中にセンサーを巡らせて需要を生み出すことも考えていきたい」
- 「「リスクをおかさずに安全な道ばかり選んでいたら絶対後悔する」と聞いて、色んなことに挑戦していきたいと思った。そこで自分のやりたいことや夢を見つけていきたい。その挑戦の1つとして、自分とは違う、様々な個性を持った人たちと積極的に関わることで自分のコミュニケーション能力を伸ばしていきたい」
- 「自分が目指している進路がまさに創造力・創出力を必要とする分野なので、海外に向かって開かれた大学へ進学して、もっと多様な人と関わる機会を多く持ちたいと思った。そのためにも今から人と上手くコミ

ニケーションを取る方法を模索し、自分とは何かを考え、自己改革、自己改善を進めていくようにしようと思う」

- 「理系だからといって国語を蔑ろにしていたかもしれないけれど、まずは母国語で自分の論を表現するために国語を頑張ろうと思った。自分の考えは自分の頭の中で留めておくのではなく、言葉として変換し主張していこうと思った」
- 「『人と違うことは強み』だと講演会を通しておっしゃっていたから、授業などで意見交流をするときは、躊躇せず進んで意見を出す」
- 「いつも仲のいい人だけで活動するのではなく、グループ活動をするときにはあまり話したことがない人も活動してみたいと思いました。そして、人間だけにある、心で相手のことも考えて会話をするようにしようと思いました」
- 「この講演を聴いてこれからの社会には女性の力が必要だということがわかったので、もっと地域社会を考えて社会に進出していきたいと思いました」
- 「これまで夢が漠然としていたけど、これから残る仕事や、リスクを犯せという言葉で少し未来の自分の形が見えた気がするから、これからはいろんなことにぶつかっていきたい」
- 「やりたいことが決まってない人は、いろんなことを経験することで夢が見つかることもあると聞いた。私はまだボランティアなどの学校外の活動に参加したことがないから、高校を卒業するまでの間に1つでも何かの活動に自分から参加したい」
- 「探究の時間で、福山市に住んでいる外国人と、地域の人達や高校生などとの交流の場を設ける計画を始めています。その中で、今回の講演で聞かせて頂いた、この先もっと国籍や性別、自分とは全く違う環境で生活してきた人と交流して、新しい物を生み出すべきという言葉から、今自分たちがしている活動はとても大切なことだと改めて気付きました。
- 「将来の夢があまり定まっていなかったけど、今回の講演で聞いたことや、いま自分進めている探究活動から、まちの課題解決や地域に住む外国人を手助けできるような仕事に興味がわいてきました」

最後に、教員から寄せられた感想も一部ご紹介します。

- 「将来の自分の生き方、価値観など根本的な基盤を創り上げる方向性が 20 世紀とは違う事を認識した上で生徒に接したい」
- 「特に、授業でアイデアを出すときとか、何かを作り上げることを通して、共感力・多様性を尊重する力を付けさせたい。自分がまず変わる!」
- 「グループ活動による課題解決で、創造的な体験を得られる授業作りをしたい」
- 「日本の学校の画一的なイメージから脱却したい。校則をさらに考え直し、一人一人が異なり、個性があり、様々な意見が許されるような学校にしたい。」
- 本日学んだ、「AI にはできなくて、人間の強み」は、①「創造力」②「共感力」③「コミュニケーション」④「柔軟性・適応性」⑤「協働力」⑥「モラル・倫理性」。これら6つの力を育てために、授業で次のように取り組んでいきたい。①「創造力」(新しいものをつくる力)では、ブルームタキノミーの最上位(Create)を意識した単元課題を継続する。グループワークで多様なメンバー構成とする。②「共感力」(エンパシー(他人の気持ちと同じように感じる))は、HR も含めて「共感性」をキーワードにしているので、それを継続する。③「コミュニケーション」(listen, 聞く, think 批判的に考える, speak 話す)を通して共感力の向上を図る。④「柔軟性・適応性」(予想していない変化に対応する力)は、幸福学の「何とかなる」とつながる部分がある。生徒とさらに意識する。他に、⑤「協働力」(多様なグループメンバー構成)、⑥「モラル・倫理性」(AI の結果のファクトチェック, 日常での倫理観アップの取組)にも意識的に取り組む。